

策定年月	令和6年4月
見直し年月	令和〇年〇月

麦・大豆国産化プラン

産地名：宮城県栗原市

(作成主体：株式会社吉尾ファーム)

1. 麦・大豆生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

麦・大豆生産の現状と課題

- ・中山間地のため、農家の高齢化による離農や後継者不足が進んでおり、担い手への農地集積が進み課題である。
- ・需要に応じた主食用米生産取り組みながら、土地利用型転作作物の導入しながら水稻との作業分散しなければならない課題や標高の高い山から10月下旬に季節風が吹いてくるため、大豆栽培は困難と考えられ、小麦栽培を転作の主な作物に位置付ける。
- ・小麦栽培は播種時期が短期間、収量確保のために雑草対策や病虫害対策が重要となるが、播種時期の雨による湿害や栽培期間(11月～2月)に鳥害を受けやすく収量確保や品質が不安定となっている。

課題解決に向けた取組方針

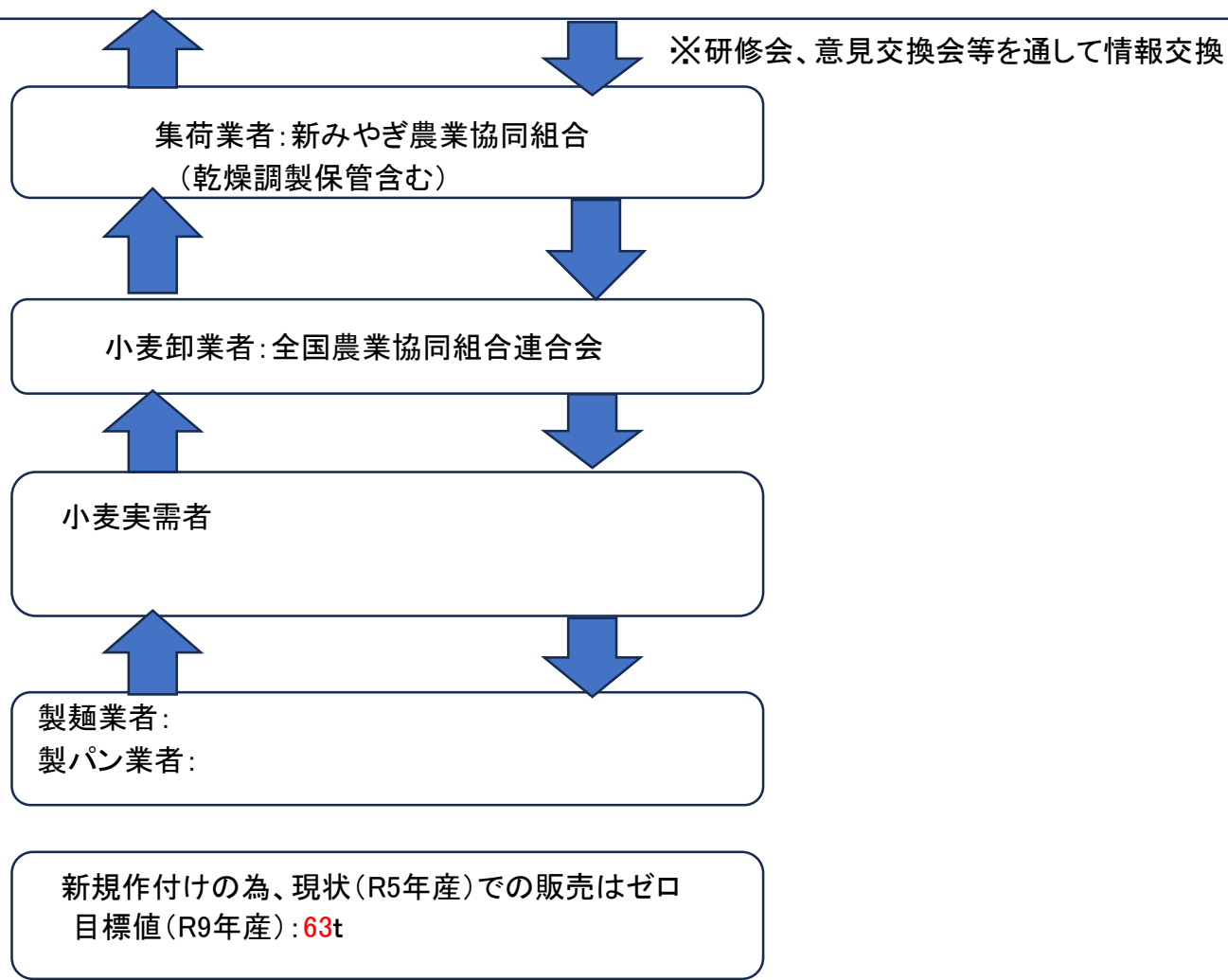
- ・地権者と協議しながら団地化の検討や圃場整備事業と連携した耕作面積拡大により、作業の効率化並びに会社経営の安定化を図る。
- ・スタブルカルチとリバーシブルプラウにより乾田化を図り、湿害を回避する。
- ・「シラネコムギ」や「夏黄金」等、実需者からの要望のある品種の作付け拡大に取り組む。
- ・短期間かつ適期に耕起・播種・除草・防除作業を実施するために、作業能力の優れた動力機械(RTK搭載)等の導入により、作業能力の向上に加え、オペレーターの負担を軽減し持続的な経営を図る。

※ 麦・大豆生産における課題(湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等)を具体的に記載すること。

※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

2. 産地と実需者との連携方針

宮城県栗原市産地 連携方針:実需者の意見を反映した品種の作付けと高品質な原料供給



※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。

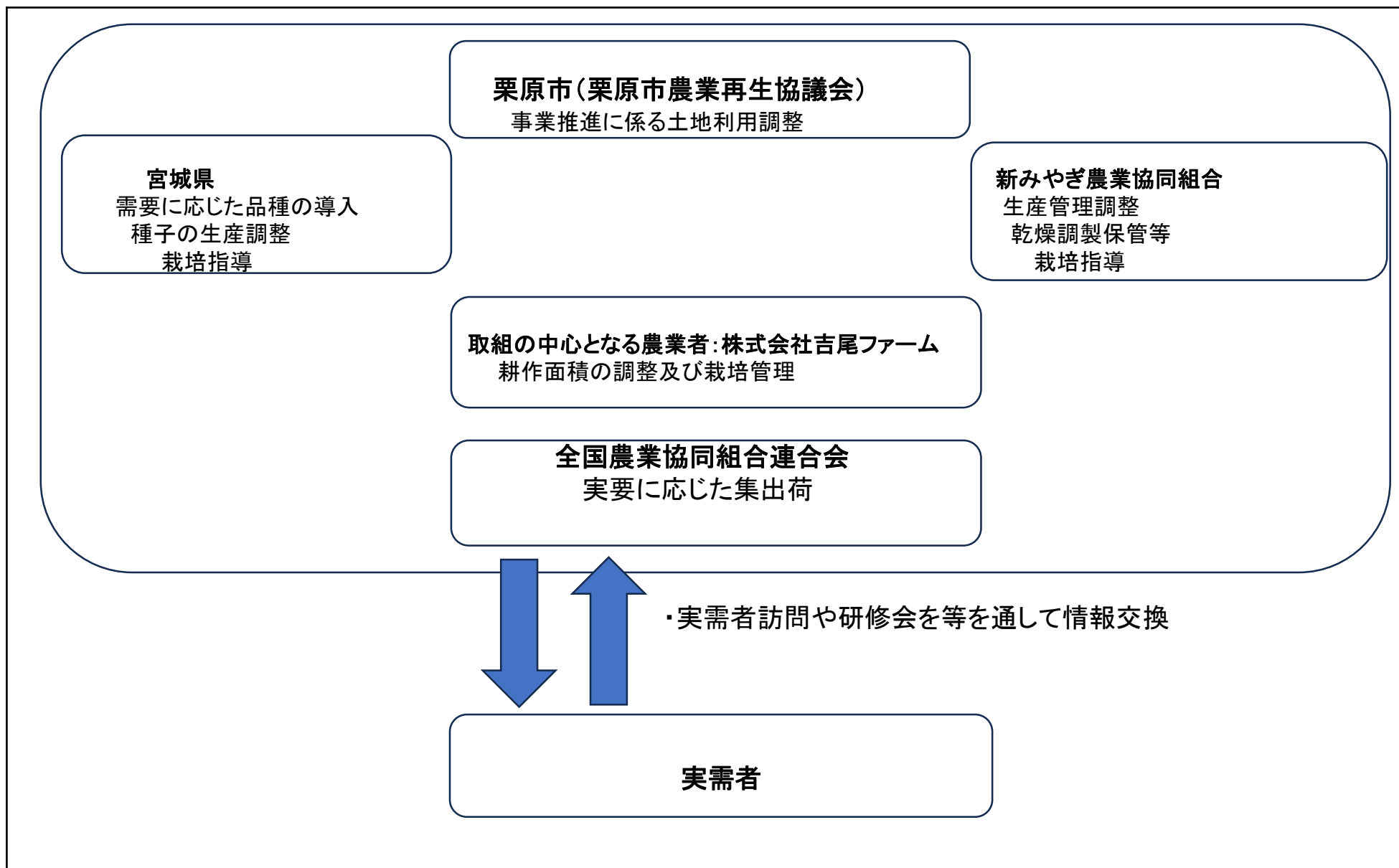
※ 麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者(製粉会社、製パン会社、製麺会社等)とする。

※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。

なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先(最終実需者)について、代表的な者の名称を記載すること。

※ 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

3. 麦・大豆の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割



※ 産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。

※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。